

様式第 4 号（第 7 条関係）

パブリックコメント募集案件概要書

【案件名：第 3 期つくば市戦略プラン（案）】

つくば市政策イノベーション部企画経営課

○ 計画等を必要とする背景・提案に至るまでの経緯

つくば市では、社会・経済等の情勢変化に的確に対応し、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指し、まちづくりの指針として「つくば市未来構想」を策定しています。

あわせて、未来構想で掲げた「2030 年の未来像」の実現に向け今後 5 年間の市の取組方針を示す計画である「第 2 期つくば市戦略プラン」を策定しています。

「第 2 期つくば市戦略プラン」の計画期間の終了に伴い、新たに市が今後 5 年間で取り組むべき施策を定めるため、「第 3 期つくば市戦略プラン」を策定します。なお、本計画は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、地域で取り組む地方創生の取組を定める市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体的に策定するものです。

○ 他の自治体の類似する計画等の事例

総合計画の一部（基本計画）として、各市町村で策定されています。

○ 未来構想における根拠又は位置付け

未来構想で掲げる未来像の実現に向けた今後 5 年間の市の取組方針を示したものです。

○ 関係法令、条例等

まち・ひと・しごと創生法 第十条（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）

○ 計画等の実施により予測される影響及び効果（算出できるものはコストを含む。）

予算や職員等の経営資源に限られる中で、市の魅力を高め、持続可能なまちづくりを進めるため、戦略的・計画的に施策を展開し、特に重点的に取り組む施策への経営資源の配分や、組織横断的な施策の実行、計画的な進行管理を行うことにより、効果的・効率的に 2030 年の未来像の実現に向けて取組を進めることができます。



第3期 つくば市 戦略プラン 概要版（案）

令和7年(2025年) 月

〔対象期間〕

令和7年度(2025年度)から

令和11年度(2029年度)まで

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

未来構想・戦略プランとは？

【位置付け】

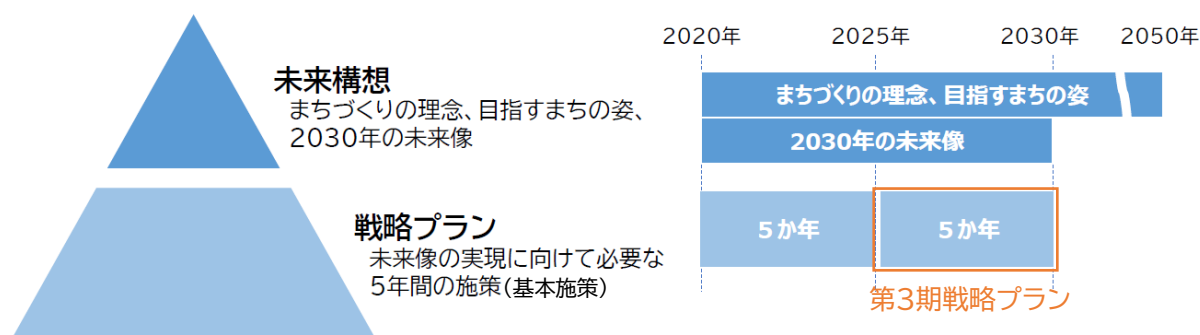
- つくば市では、予算や職員等の経営資源に限られる中、市の魅力を高め、持続可能なまちづくりを進めていくに当たって、総合的・戦略的に行政運営を行うため、地方自治法により策定が義務付けられていた総合計画（平成 23 年（2011 年）策定義務は廃止）の後継として、まちづくりの基本的な指針となる「未来構想」とその実現に向けた「戦略プラン」を策定しています。

【構成】

- 未来構想は「まちづくりの基本的な指針」を示すものです。現行の未来構想は、近年のトレンドや新たに発生した行政課題を反映して令和2年（2020 年）に改定され、21 世紀半ばまでを見据えた「まちづくりの基本理念」と、「目指すまちの姿（ビジョン）」を定めるとともに、そのマイルストーンとして各ビジョンの「2030 年までの実現を目指す未来像」を明らかなとしていいます。
- 戦略プランは、未来構想の実現に向け、特に重点的に取り組む具体的な施策を定める計画です。第2期戦略プランの計画期間が令和6年度（2024 年度）で終了を迎えるに当たり、その後継として、新たに第3期戦略プランを策定しました。第3期戦略プランは、未来構想に掲げられた「まちづくりの理念」と「目指すまちの姿」及び「2030 年までの実現を目指す未来像」の実現に向け、今後5年間の市の取組方針となる基本施策を定めています。

【期間】

- 今回策定した第3期戦略プランの計画期間は、令和7年度（2025 年度）から令和11年度（2029 年度）の5年間です。



未来構想

【まちづくりの理念】

つながりを力に未来をつくる		
➤ 顔と顔が見える 多様なコミュニティの中で、顔と顔が見えるつながりをつくり、	➤ 挑戦を応援する イノベーションを目指す挑戦者を応援し、挑戦を身近に感じながら次世代を担う子どもたちが成長することで、新たなまちの活力を生み出し、	➤ 未来をつくる 誰もが幸せを感じる未来をつくり、さらなる好循環を生み出すことで、まちを持続的に発展させていきます。

【目指すまちの姿】

- まちづくりの理念に基づく取組を進めることにより、以下の「目指すまちの姿」の実現を目指します。

I 魅力をみんなで創るまち	市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまち。
II 誰もが自分らしく生きるまち	誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せがあふれるまち。
III 未来をつくる人が育つまち	自分たちのまちと世界を知り、未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。
IV 市民のために科学技術をいかすまち	市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまち。

【2030 年の未来像】

I 魅力を みんなで 創るまち

I-1 市民と共に創る まちの実現



I-2 資源をみかく 新たな魅力の創造



II-1 地域が支え合う医療、 介護、福祉の実現



II-2 生涯いきいきと暮らせる 人生 100 年時代の実現



II-3 日頃から地域で連携した 防災・防犯体制の構築



III 未来を つくる人が 育つまち

III-1 こどもも親も 楽しく育つ環境の充実



III-2 じぶんの「好き」を見つけ 個性を伸ばす環境の充実



IV-2 地元で頑張る組織や 人の持続的な成長



IV-3 新たな技術や価値の導入 によるまちの進化



IV-4 地球に優しく「ごみ」の ない循環型社会の実現



I-3

つくばならではの
街並みや体験の創出



I-4

世界中から人を
惹きつける魅力の発信



II

誰もが
自分らしく
生きるまち

II-4

公共施設やインフラの
長期的な活用・維持



II-5

ライフスタイルに合わせた
多様な移動手段の構築



II-6

身近な自然を守り、
楽しみ、持続させる



III-3

多様性をいかした誰もが
活躍できる社会の実現



IV

市民のために
科学技術を
いかすまち

IV-1

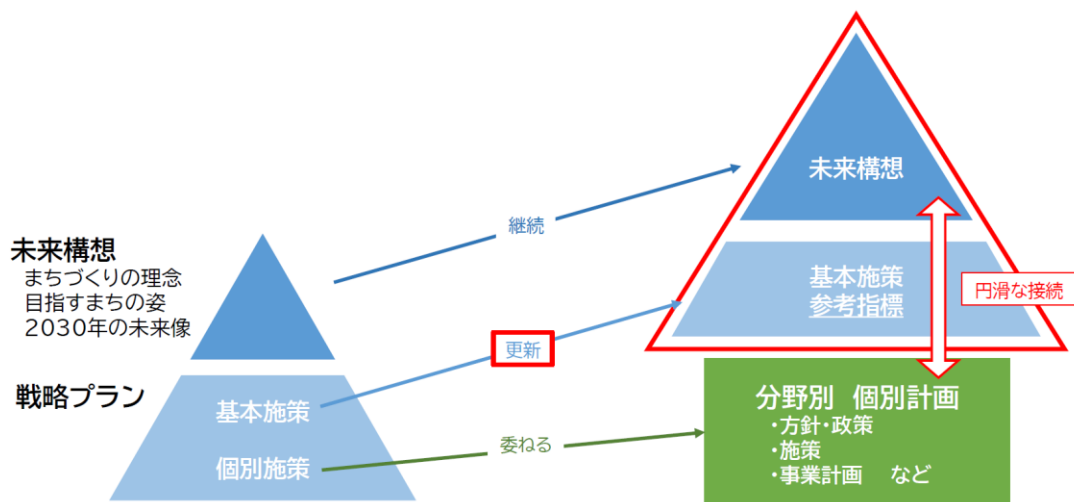
未来を切り拓く
社会イノベーションの創出



第3期戦略プラン策定の考え方

【個別計画との連携】

- これまで、計画分野が広範にわたり、かつ計画期間を5年間としている戦略プランにおいて、つくば市を取り巻く社会・経済状況が想定を超える速さで変化している中、時勢を捉えた素早く柔軟な対応をとりづらいことが課題となっていました。
- また、第2期戦略プランには基本施策の方向性を具現化した個別施策やその中で取り組む主要な事業を記載していましたが、その計画運用に当たっては、各分野における取組方針や施策展開を記した個別計画との間において、整合性や合理性の面で課題が生じていました。
- 第3期戦略プランでは、基本施策の具体的な取組内容については個別計画等に委ね、今後5年間で取り組むことの概要をまとめています。その際、各分野の個別計画における施策体系や指標等との整合を図ることで、未来構想に掲げる未来像と個別計画をつなぐ役割を持たせ、上記課題の解消を目指します。



【地方版総合戦略との一体化】

- 国は、各地域が実情に応じたあらゆる分野でデジタル技術を有効に活用し、地方の個性を活かしながら社会問題の解決と魅力向上を図ることで、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現に向け、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を推進しています。
- 市町村においては、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の総合戦略を勘案し、地域で取り組む地方創生の取組について、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「地方版総合戦略」という。）を策定するよう努めなければならないとされています。
- 地方創生は、市の総合的かつ戦略的な行政運営を進める上で重要な課題であることから、つくば市では、計画の二重性の解消・合理化を図るため、第3期戦略プランを地方版総合戦略と一体的に策定し、デジタルの力を活用した戦略的な施策を効果的・効率的に展開することで、未来構想に掲げる未来像の実現に向けた地方創生を推進します。

第3期戦略プラン

【つくばが「つながる」ための視点】

市民のニーズが多様化・複雑化するなかで、行政に求められる役割や業務が多角化し、施策や組織横断的な取組がますます期待されています。そうした中、「つながりを力に未来をつくる」ために、各種施策等を策定する上での共通視点や考え方を以下のとおり整理しました。

① 地域やコミュニティがつながる	既存の公共施設のみならず、官民の境目を問わず気軽に多くの方が交流できるたまり場のような拠点を増やしていくことを目指します。
② 知識や経験がつながる	ビジネスや研究等の様々な知識や経験を持った人達が気軽に集える場所や機会を設けることで、新たな挑戦やイノベーションを生み出すとともに、さらに人を呼び込む好循環につながることを目指します。
③ 社会の資源がつながる	行政や企業が持つ既存の施設や空間、時間等の資源をいかし、新たなものを単独で建てる・購入するだけではなく、必要なものを市・市民全体でシェアすることを目指します。
④ 市内外の応援する気持ちがつながる	市内外のつくばを応援する人たちの気持ちが事業につながる仕組みづくりを目指します。
⑤ 中心地区と周辺地区が好循環でつながる	研究学園都市地域やつくばエクスプレス沿線地域等の中心地区には、商業施設が集積するとともに、新たな住宅開発等が行われ人口が増加しています。一方、既成市街地域や集落・里山地域等の周辺地区には、豊かな自然環境や従来からの地域コミュニティ等があり、良好な生活環境が保たれています。 中心地区・周辺地区間の双方向のヒト・モノ・コト・カネの流れをつくり、好循環でつながることを目指します。
⑥ 持続可能な選択につながる	持続可能都市をつくるのは、市民一人ひとりの選択の積み重ねであることを認識し、日々の選択が持続可能性を認識したものとなる施策を目指します。

I 魅力をみんなで創るまち

市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまち。

基本施策 I-1 市民と共に創るまちづくりを推進する

既にまちづくりに参加している市民が満足に活動できるよう、ICT等を活用して活動にかかる負担軽減を進めるとともに、人材や資金面での自立性確保の支援、コーディネートによる団体間・事業者間とのつながりづくりにより、無理なく続けられる活動環境づくりを推進します。また、市民がまちづくりに関わる裾野を広げるため、区会活動の意義や必要性の理解を深める情報発信及び市民活動等を始めるきっかけ作りを実施します。

キーワード ▶市民協働、区会、市民参加

今後5年間
の取組

- ① 地域活動と市民チャレンジへの支援
- ② 新規区会設立促進と活動支援
- ③ 市政への市民参加の推進

基本施策 I-2 資源をみがき、いかし、魅力あふれるまちをつくる

研究機関や事業者、地域住民、ボランティア等、多様な主体との連携を深め、アイデア(先進的技術など)やセンスを取り入れることで、資源の活用や産物の磨き上げを推進するとともに、様々な資源や産物同士を連携させ、新たな魅力の創出につなげます。

また、ホームページやSNS等を活用した情報発信を強化するとともに、市民への魅力発信にも注力することで、市民による魅力の発信を促進します。

キーワード ▶農業、観光、文化財

今後5年間
の取組

- ① 豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出
- ② 豊かな資源をいかした観光の振興
- ③ 文化財の保存と活用

基本施策 I-3 つくばならではの街並みや体験を創出する

つくば駅周辺の拠点性と市内各地に散らばる様々な魅力の連携により、人の流れや経済効果を互いに波及させるなど市域全体が持続可能となるための活力が生み出されるまちづくりを進めます。つくば駅周辺では、意欲・アイデアのある民間企業やNPO、学生団体等と連携し、ペDESTリアンデッキや公園・広場等のパブリックスペースの魅力を高め、多様なアクティビティや交流を生む場を創出します。周辺市街地振興では、魅力ある地域づくり活動として、地域住民だけではなく他地域の人材からのアイデアや、ビジネスの手法を取り入れた活動を行っていきます。

キーワード ▶筑波研究学園都市、中心市街地(つくば駅周辺)、周辺市街地(R8)

今後5年間
の取組

- ① つくば駅周辺の魅力向上にぎわい創出
- ② 地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興

基本施策 I-4 シティプロモーションを推進する

市民が必要とする情報を得られ、市政により一層深く関心を持つよう、職員一人ひとりが広報パーソンとして市政情報を発信できる広報力を高め、多様な媒体を生かした戦略的な広報活動を推進します。あわせて、つくば市の魅力を市民、そして国内外に向けて分かりやすく効果的に提供します。

キーワード ▶広報

今後5年間
の取組

- ① 市内外へ向けた戦略的な広報の推進

Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち

誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいさわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せあふれるまち。

基本施策Ⅱ-1 地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる

地域福祉の担い手不足の解消に向け、担い手としての市民意識醸成のため、地域交流の促進や積極的な情報発信を進めます。支援を必要とする住民に向けては、支援窓口機能や情報提供体制をより一層強化します。

また、地域社会の構造変化に対応するため、各分野での支援制度の充実に加えて分野横断的に連携を図ります。

【キーワード】地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉

今後5年間
の取組

- ① 相互に支え合う地域共生のまちづくり
- ② 誰もが適切にサービスを利用できる支援体制の強化
- ③ 誰もが安心して暮らすことができる包括的支援の充実

基本施策Ⅱ-2 人生100年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる

市民一人ひとりが生涯を通して心身ともにいきいきと学び、暮らすことができるように、心と体の健康づくりの支援を充実するとともに、ライフステージに沿った学びや社会参加の機会の充実を図ります。

【キーワード】健康、生涯学習、スポーツ、文化芸術

今後5年間
の取組

- ① 健康づくりの支援
- ② 生涯学習による市民生活の充実
- ③ スポーツで“つながる”まち つくば の実現
- ④ 文化芸術による市民生活の充実

基本施策Ⅱ-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする

誰もが安全・安心に生活できるまちを目指し、市として災害への備えの強化や防犯設備の整備を進めていくとともに、防災・防犯の両分野で市民一人ひとりの意識を高め、自主的な防災・防犯行動の実践につなげるため、より効果的な情報発信や啓発活動を工夫し実施していきます。

また、地域が主体となった防災・防犯への取組を促進するため、活動支援をはじめとする働きかけを行います。さらに、空家等の所有者等による適切な管理を促進し、管理不全化を防止するとともに、管理不全な空家等への対応を行います。

【キーワード】防災、防犯、空家対策

今後5年間
の取組

- ① 災害に備えた市による公助機能の強化
- ② 市民による自助・地域における共助の推進
- ③ 防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり
- ④ 安全・安心な地域づくりのための空家対策

基本施策Ⅱ-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する

限られた財源の効率的な執行、財政負担の平準化を実現する公共施設とインフラの管理運営を目指し、つくば市公共施設等総合管理計画のもと総合的かつ計画的に進めます。公共施設のマネジメントでは、コスト縮減に加えて機能性、安全性の確保など、求められる事柄が多岐にわたっており、効率的な設計、建設及び維持管理・運営が欠かせないことから、公民連携などの新たな仕組の構築と体制の充実を図ります。

【キーワード】公共施設、インフラ

今後5年間
の取組

- ① 公共施設・インフラの予防保全型維持管理の強化
- ② 安全・安心と充実した機能確保するための施設整備
- ③ 安定的な財源確保と民間の創意工夫等の活用

Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち

誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せあふれるまち。

基本施策Ⅱ-5 多様な移動手段があるまちをつくる

ドライバー不足をはじめとする公共交通が抱える交通課題の解決や多様な移動ニーズを満たすため、移動の選択肢を増やすとともに、限られたリソースを効率的に活用することができる公共交通ネットワークの形成を目指します。さらには、実証実験を通して持続性が高い公共交通の導入を検討します。

また、安全で快適な自転車通行空間の整備を進めるとともに、様々な角度からのアプローチにより自転車利活用の機運醸成を図ります。

【キーワード】公共交通、自転車

今後5年間
の取組

- ① 利便性の高い公共交通ネットワークの形成と様々な移動サービスの提供の推進
- ② 自転車を楽しめるまちづくりの推進

基本施策Ⅱ-6 身近な自然を守り、楽しみ、持続させる

市民一人ひとりが身近な環境を守り、楽しみ、維持するための具体的な行動につなげていくため、身近な自然に親しむ機会や考える機会の充実を図ります。また、将来にわたって自然の恵みを享受していくため、保護地域を保全・活用するとともに、市の自然が有する多面的機能や生物多様性を把握し、計画的な維持・保全を進めていきます。さらに、住みやすい生活環境を守る取組を進めていきます。

【キーワード】生物多様性、森林保全、環境保全

今後5年間
の取組

- ① 生物多様性の重要性や価値の理解促進
- ② 多面的機能を発揮する森林の維持・保全
- ③ 安心して快適な生活環境の保全

Ⅲ 未来をつくる人が育つまち

自分たちのまちと世界を知り、未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。

基本施策Ⅲ-1 子どもも親も楽しく育つ環境をつくる

安心して子育てできる環境の充実を図るために、引き続き就労と育児の両立支援を推進していきます。また、効果的な情報発信や、支援機関同士の連携を強化し、複雑な相談にも対応していく仕組みを整えます。さらに、他の子育て世帯と交流することができ子どもも大人も集まれる居場所やたまり場を増やします。

【キーワード】妊娠・出産・子育て、幼児教育・保育、放課後の居場所、たまり場

今後5年間の取組

- ① 安心して生み育てられる子育て環境の充実
- ② 幼児教育・保育の環境の充実
- ③ 放課後等における子どもの活動環境の充実
- ④ 子どもも大人も楽しめるたまり場の充実

基本施策Ⅲ-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む

引き続き教員の教育大綱に関する認識の深化や教育現場における実践を支援することに加え、子どもたちの個別、双方向の学びの機会や環境を充実させます。

また、保護者や地域との協働を進め、多様な教育資源を生かしながら、個性を伸ばし未来を切り拓く力を育むための取組を充実させます。

【キーワード】学校教育

今後5年間の取組

- ① 一人ひとりの「学び」を大切にする教育の推進
- ② 「学び」の多様性に対応し個性が花開く教育の推進
- ③ 地域に支えられ、共に学び育ち合う教育の推進

基本施策Ⅲ-3 多様性が尊重された、包摂的な社会をつくる

個別の相談や語学等の生活支援、就労支援等、市民一人ひとりの個性が尊重され、それをいかせるようにするための取組を引き続き進めます。あわせて、教育や啓発活動など、周囲の多数者も含めて多様性を尊重し認め合う意識変革に向けた取組とともに、一緒に活動する機会づくり等、お互いの理解を深めるための取組をすることで、包摂的な社会の実現に向けた基礎づくりを進めます。

【キーワード】多文化(国籍)、性別、障害

今後5年間の取組

- ① 多文化共生の推進
- ② 性別にかかわらず自分らしく生きられる環境づくり
- ③ 障害者が安心して暮らし、活躍できる環境づくり

Ⅳ 市民のために科学技術をいかすまち

市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまち。

基本施策Ⅳ-1 新たな共創の仕組みづくり

科学分野のヒト(研究者)・コト(研究成果)・モノ(研究機関)の集積と、民間企業の研究開発部門及び研究開発型スタートアップが活発であるというつくば市の強みをいかし、市民を含む多様な主体の交流や実証の場を創出することで、社会課題の把握・共有、その解決に向けたイノベーションの創出につながる仕組みづくりを推進します。

【キーワード】新産業育成、イノベーション、スタートアップ

今後5年間
の取組

- ① イノベーションの創出を加速する仕組みづくり
- ② スタートアップを支援する仕組みづくり

基本施策Ⅳ-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる

事業を拡大する市内企業の域外流出防止や市外企業の誘致を図るため、オフィス確保への支援や産業用地の整備等に取り組みます。また、市内企業に関する情報発信の取組を効果的に進め、求職者に対する認知度向上を図るとともに、就職活動前の高校生・大学生等を対象とした就職関連イベント等の実施により若者の地元就職への動機づけを促します。

あわせて地域の事業者に対し起業家的行動能力の育成を進めるとともに、スタートアップや市内企業の交流を後押しする取組を実施し、地場産業の活力を高めていきます。

【キーワード】オフィス・産業用地、若者定着・雇用促進、新規創業

今後5年間
の取組

- ① 成長産業・新産業の立地促進
- ② 地域産業人材の確保・定着の推進
- ③ 新たなチャレンジへのサポート

基本施策Ⅳ-3 市民のために新たな技術や価値を導入し、進化するまちをつくる

先端的サービスの社会実装に向け、推進体制を強化するとともに、規制改革や庁外データ連携基盤の利活用を推進します。

また、デジタルを基本とした行政サービスや庁内データの利活用を推進します。さらに、行政事務の効率化に繋がるデジタルツールの導入に向けた環境の整備を行います。

【キーワード】スーパーシティ、データ利活用、行政のデジタル化、デジタルによる業務改革

今後5年間
の取組

- ① スーパーシティの推進
- ② データで市民と豊かになるまちの推進
- ③ デジタルを基本とした行政サービス
- ④ デジタルを活用したワークライフバランスの向上

基本施策Ⅳ-4 地球に優しく「ごみ」のない低炭素で循環型のまちをつくる

行政、市民、事業者がそれぞれの役割と責任のもと、互いに協力してごみ減量、3Rの推進、や脱炭素化に取り組むよう意識啓発を行うとともに、つくばならではの地域特性を生かした先進的な取組も交えながら、循環型社会・脱炭素社会への移行を推進します。

【キーワード】ごみの減量、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進、脱炭素

今後5年間
の取組

- ① ごみの減量化・再資源化
- ② 地域の脱炭素化

【戦略プランの推進体制】

経営資源の最適化	予算や職員等の経営資源が限られる中、戦略プランを着実に推進するため、職員の育成や適正配置、予算の重点配分等を行うとともに、従来の手法や考え方にとらわれず業務のあり方を見直し、外部の人的資源やデジタル技術等を活用することにより、経営資源の最適化を図ります。
庁内における連携	市民ニーズが多様化し行政に求められる役割が多角化する中、部門間の連携を一層強化し庁内横断的な推進体制により、複雑化する社会課題の解決に向けて取り組みます。
地域・市民の力や民間活力等の活用	つくば市は、筑波研究学園都市の研究機関や研究者、多様な市民や学生、地元根付いた企業に加え、多数の外国人も居住する国際都市として多くの地域・人的資源を有しています。また、つくばを巣立った若者や学生、仕事や余暇等でつくばを訪れた多くの人が関係人口として全国や世界に広がっています。今後も、行政だけでは解決できない課題に対し、地域や市民の力、民間活力等の活用により答えを導き出し、つくばの可能性を高めていきます。
取組の検証	社会情勢が目まぐるしく変化する中、着実に戦略プランを推進していくためには、施策の目的や効果等の検証を行うことが重要です。このため、人口や定住意向等、つくば市のまちづくりにおける基本的なデータや個別の各施策に設定した成果指標を継続的に把握することにより、計画の進捗状況等を十分に検証し、市民が求める施策の展開につなげていきます。